

第7号
1982

会 報

にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次



ご挨拶	……………	学校長	宮地 恒雄	……………	1
ご挨拶	……………	前校長	西村 博	……………	2
須工在職26年を願みて	……………	前教頭	久 正一	……………	3～4
学校近況	……………	教 頭	竹村 義典	……………	5
近畿支部	……………		吉川 貞造	……………	6
ハチキン健在（寄稿）	……………		”	……………	7
イラク雑感（寄稿）	……………		広瀬 理	……………	8
高知支部	……………		吉岡 豊延	……………	9
関東支部	……………		岡田 信雄	……………	10
幡多支部	……………		吉村 功	……………	11
淀鋼大阪工場 第5回 同窓会成功す（寄稿）	……………		矢野 晴英	……………	11～12
陸船会便り（寄稿）	……………		福永徳七郎	……………	13
同窓会の末永い発展を求めて	……………	同窓会長	清家 寛	……………	14
		事務局長	島崎 良一		
職場訪問記	……………	進路指導部	高橋 宣彦	……………	14～15
「ソフトボール部」近況報告	……………		伊藤 正孝	……………	15
会 則	……………			……………	16～17
昭和56年度決算報告	……………			……………	18
昭和57年度予算	……………			……………	18
事務局だより	……………		島崎 良一	……………	19～20
追 悼	……………			……………	21
終身会費納入者名	……………			……………	22～23
本年度事業中間報告	……………			……………	24
各種証明の発行について	……………			……………	24
編集後記	……………			……………	24

ご挨拶

学校長 宮地 恒雄



ろであります。

特に、生徒指導につきましては、全教職員の共通理解のもとに、節度ある生活態度の養成や基本的な生活習慣の確立のために取り組んでいるところであります。

本年度の生徒指導の具体的方針として、

- (1) 欠席、遅刻、早退をしないようにしよう。
- (2) 服装規定を厳守し、挨拶をするようにしよう。
- (3) 授業は真剣に取り組み、学習用具を持ち帰るようにならう。

の三点に力を入れたところであります。これは重要な生徒指導の中でも、今日本校にとって特に肝要なことでもあります。

ところが、本年五月学校の指導が厳しすぎるとして、生徒が反発したことがあります。校長の不徳のいたすところ、誠に申し訳なくお詫び申し上げます次第であります。

なお、この問題は約一ヶ月後に終止符を打ち、現在も前記三点に力を入れて指導いたしております。

指導のあり方については、生徒との対話を大切に、生徒理解に努めながら愛情をもって指導するとともに、生徒会とのパイプを通ずるなど、より良い

方向を目指している次第であります。そうして、生徒自身が、学校の良さを伸ばし、学校をより良くするように更に指導を続けたいと存じます。

九月二十一日付毎日新聞高知版には、同窓生有志諸兄による「秋風よりもさわやか。われらが母校須崎工業高校」が大きく連載されました。その御厚情と学校の歴史の重みを生徒に感じさせるよい教材を与えて載せましたことを、紙上を借りまして御礼申し上げます。

いま就職につきましては、全国的に景気の落ち込みから、昨年より二・三割方求人が少なく、とりわけ県内企業からの求人、昨年の半分に足りない現状で、はなはだ寒心に耐えないところであります。同窓生諸兄におかれましては、一つ後輩のために、それぞれの御立場から格別の御支援をお願い申し上げます。

最後に、教職員一同伝統に輝く本校の発展のため同窓会、PTAと手を握りあい連携プレーがスムーズに行われるよう努力いたしたいと存じますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

美しい錦浦湾を望む学校で、同窓会諸兄の御来訪をお待ちいたしておりますので、是非お立ち寄り下さい。

同窓生の皆様に、謹んで御挨拶申し上げます。

西村前校長が県文化の殿堂であります県立図書館の館長に栄転されましたあとを受け、この四月に校長を拝命いたしました。既に、八ヶ月を経過いたしました。生来鈍重の身ではありますが、なんとか同窓生の皆様の御期待にそうように、努力いたしたいと存じておりますので、前校長同様何とぞよろしく

お願い申し上げます。

御承知のように、本校は現在機械科、造船科、化学工業科、電気科の四科が設置され、合わせて生徒は五百四十一名、教職員数は六十八名であります。

学校の取組みは、学力向上、健全育成、同和教育の推進、進路指導の充実等に全力を挙げているとこ



ご挨拶

退職偶感 西村 博

同窓会の皆様、須崎工業高校在任中は会長さん始め皆々様の暖かい御厚情御尽力を賜り有難うございました。三十三年にわたる教職生活に一応の終止符を打って、新しい仕事に向かわねばならぬとなった時、須崎工業高校に別れるという惜別の情、教職生活と異なる日々の涙とした淋しさとも言うべき心境に身をゆだねている今日この頃であります。その反面、同窓会の皆様始めよき同僚すべての人の暖かい御協力を得て仕事をなした事は、皆様のお陰と感謝の思いを深くしております。須崎工業高校在職中での印象深い思い出は数限りなくありますが、思い出すままに記してみたいと思えます。

(一) 同窓会

赴任して間もない年の五月、東京で須崎工業高校同窓会関東支部総会があり初めて出席させていただきました。関東地区在住の卒業生の皆様と初めてお会いした時、とても暖かく迎えて頂き、海地会長さん、役員の本田さん、片岡さん始め出席の皆様から、母校の発展と後輩の育成に強い関心をもっておられる様子を目の前に見て、背筋の引きしまる気持と責任の重さを痛感しました。皆様から「先生頑張ってください」「困った時には相談のりますから」「出来る事は何でもしますよ」これ程大きな支えはない。有難い感激いっぱい皆様に送られ会場を去った事でした。又毎年夏に開かれる総会に、高知支部の皆様

が貸し切りバスで参加して頂き暖かい励ましのお言葉を頂いたのも嬉しい思い出であります。中村で轄多支部が生まれ速く宿毛、清水、大月よりも参加して頂き、須崎工業高校の発展と団結を誓った事など同窓会の思い出は数限りなくあり、皆様のはげましにより無事大任を果す事が出来た事を感謝していただきます。

学校経営で常に考えていた事は、いかにして生徒の人間形成と彼等のもつ知的、技能的、身体的その他もろもろの能力を發展させるかでありました。校長として生徒に接するのは、科長や部長、学級主任を通して間接的な事が多いのであえて生徒を直視し、生徒との接触を求めての方針で通して来ました。

(二) 生徒集会

入学式、卒業式の式辞は半ば校長の本音、半ば儀式的な内容となるので、直接生徒に話しかける場として生徒集会での話を大切にしました。数多くの内容とせず、時間も長引かないように考えましたが欲が出て長くなる時もありました。御承知の通り須崎工業高校のグラウンドは山の上にあるので校長や先生方の話は学校付近の民家や仕事をしている住民の方々にそのまま聞えます。注意事項を話す時はあまり聞かれたくない事もあり、同僚の先生方より、校長あまり大きな声は出さないで、と注意を頂いた事もあります。時間の都合やその他で学級主任にホー

ムて利用してもらい、又生徒よりのアンケートの提出も頼んだ事もあります。アンケートの結果生徒の大部分のものが正義感に対してきびしい目をもってある事を知る事が出来、生徒を信じる心の大切さを痛感しました。

(三) 進度別の教科編成

中学校卒業生の94%という高校進学は、今日の高校教育が多様な多くの複雑な問題をかかえていることは今更多く語る必要はありませんが、少しだけ述べてみますと学習する内容の量質にかかわって消化不良からいわゆる学習不適応をおこしている生徒が多い、このような生徒は次第に学校生活への不適応をおこし、日々の学校生活に意義を見失い、集団生活よりこぼれ、学ぶ意志、学ぶ意欲を衰退させています。そこで学ぶ心を育てること勉強する意識をどう育てていくか、基礎的な知識、技能の修得をその生徒なりに日々つかむには、どうすればよいかを全教科の先生方にとりくんで頂き、教育課程研究会、教育問題研究会を通じ全職員に熱心に討議して頂きその第一段階として教学に対して進度別のクラス編成が生れ、教育委員会の教員配置に対する配慮も頂いた事は嬉しいことでありました。

(四) 校長室で

職員会の結果特別指導を必要とする生徒に対しては心から叱った。この子一人を立ち直らせるために校長が直接指導出来る場合はこの時しかないという気持ちでその生徒に對しました。指導の結果は、校長言だけでは足りず、学級主任とともにその子の家庭まで出かけた事もあり、母と子が涙を流し学校に詫がる姿には共に胸の中に熱いものを感しました。

この四月、私の離任式が終り学校を去ろうと玄関にさしかかった時、二階へ上ろうとしていた生徒が引き返して来て、「先生元気で」と言葉をかけてくれました。顔を見るとさびしく叱った生徒でした。こんな嬉しい言葉はない。「有難う」心の中で無事に卒業してくれるよう祈りました。

今振り返ると何ら成すところなく過した日々でありましたが、自分なりの思い出を持つことが出来た

須工在職二十六年を顧みて

山田高校教頭 久 正 一

去る四月一日付の人事異動により工業教育を離れ山田高校に配置換えを命ぜられました。

私の過した須工時代をふりかえってみますと、昭和三十一年四月に糺町の旧校舎に造船科教師として五代校長森岡貞篤先生のもとに赴任して以来、二十六年間同窓生の諸君と共に過してまいりました。その間の思い出をまとめてみたいと思います。

赴任した当時は木造の校舎で、造船科の職員室は現図実習室の片隅の小部屋で、竹村、合田、梅原先生と四人が入り、教室も火災後の復旧工事中で講堂の後方を二教室に仕切って使っており、その中で授業をし、不自由を凌ぎつつ勤めたことでした。その頃は生徒も淳朴で教師に対しても素直で、勉強もク

のは、まずは幸せと言うべきでしょう。それに付いてもよき同窓会の皆様、先生方、生徒らに恵まれたため本当に感謝にたえません。先日同窓会の吉岡さんに車の中から「先生元気でですか」と声をかけて頂き嬉しく思いました。

最後に須崎工業高校の益々の御発展と同窓会の皆様方の御健勝御多幸をお祈り申し上げます。

ラブ活動も非常に活発で生徒に対して親しみと愛着を感じたことでした。五月二十五日には創立十五周年及び災害復旧落成祝賀式があり、校内相撲大会では教員チームの選手として生徒と相撲をとり、紅白の記念饅頭が配られ、又十一月の文化祭では前夜祭の仮装行列で、教員も参加という事で「内閣」をテーマとして各大臣の仮装をし私も運輸大臣となつて、市内を生徒達と共に練り歩いたことが最初の印象に残っています。翌三十二年八月には大阪における第35回全国相撲選手権大会で団体優勝を成し遂げ、須崎工の名を全国に知らせ、全校生徒と共に市中パレードをし講堂において祝賀会が開かれて喜び合ったことでした。その後は毎年各部とも活躍し毎年県

体、郡体その他の大会でも入賞しましたが、三十九年の県体において総合優勝を果し感激を新たにしたことでした。その他毎年行なわれた各種校内大会、陸上大会、駅伝、校内マラソン等において共に流した汗の思い出、三年に一回の文化祭で共に作った数々の展示、実習、クラブで造った、ヨット、ナックルフオア、モーターボートによる帆走、競艇とか春秋二回の遠足で登った桑田山、虚空蔵山への登山、又小豆島、北九州、南九州、信州東京方面における修学旅行で寝食を共にし、工場見学を兼ね各方面を見学しながら綴った旅の思い出、就職開拓のため外の会社訪問をした時、須工卒業生に会っていろいろとお世話になった嬉しい思い出等数えあげれば枚挙にいとまがありません。

私の在職中に学校の方は三十四年に化学工業科が新設され、四〇年には電通科が廃止されて電気科二学級に増設され、生徒数も倍増いたしました。そして敷地の狭隘と校舎の老朽化のため、移転新築期成同盟会その他関係各位のご努力により四十七年には現校地に新築移転がなされ、五十三年には待望のプールも完成し、素晴らしい環境のもとに施設、設備共に完備した立派な工業高校になりました。赴任当時と比較しますと正に隔世の感がいたします。

校舎は立派になりましたがバイクモーターの普及に伴い、生徒の交通違反、交通事故が増加し、年々一人の事故死者が出て、若い生命が失われたことは誠に残念なこととございました。

苦勞と共に感銘したことは三十九年に造船科の船体性能実験水槽の建設当時、委員会の方と合田先生

と共に下関中央高校まで研究に行き、苦勞しながら設備を整え完成させた時と、移転時期に教頭の大役を拝命して、旧校舎を最後に退職された沢本校長と、新校舎に迎えた村木校長の橋渡しの存在で、その責任の重大さを痛感しましたが、村木校長、伊尾木事務長、清家同窓会長を始め関係各位の御尽力により、四十七年十一月二十五日寒い日でしたが、溝淵知事を迎えて移転新築落成並びに創立三十周年記念式典が盛大に挙げてきたこととございました。

同窓会も資金が之しく苦勞していましたが、田辺前会長、清家会長のご努力により、三十周年記念誌発行を契機に年令費制を終身費制に切り替え、会費も一千万円を越す状態になり各支部の活動も活発になって大きな発展をされましたが、在職中、事務局役員会、支部総会等には御招待頂き御交誼頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

四分の一世紀に当る二十六年間の須工の教員生活は、私の歩んできました人生の約半分であり、壮年期の最も充実した思い出に富んだ時代でございます。何か須工を卒業したような感じもいたします。

歴代の校長先生のご指導のもとに、諸先生、PTAの方々、並びに同窓会の皆様方の御支援と御協力を頂き、無事勤務し得たことに対し深く感謝いたしますと共に、同窓会の今後の発展と諸氏の御活躍、御多幸並びに須崎工業高校の益々の発展をお祈りしてご挨拶いたします。

記 住居表示が左の通り変更いたしました

〒七八〇高知市八反町二丁目二番二一〇号

TEL (〇八八八) 七二一五三〇三



▲ 昭和57年度 校内陸上大会より

学校近況

教頭竹村義典

昭和四十七年四月、紉町よりこの新校舎に移転して十年を経過しました。この間に施設、設備も次第に充実し、恵まれた環境のもとで次々と卒業生を送り出してきました。昭和五十六年度卒業生は機械科六十七名、造船科二十三名、化学工業科二十六名、電気科七十六名の計一九二名で、卒業生総数は五七九〇名(女子五十二名)となりました。

昨年度より高知県でも産業教育関係学科を設置している高校を中学生に開放し、各種の実験、実習の体験や進路相談等を行うことにより、職業教育の理解、学習意欲の向上を図る目的で一日体験入学を実施することになり、本校が県下のトップを切つて昨年九月に実施しました。この成果もあつてか参加者は中学生二二三名、保護者九名、教員二二三名それぞれ報道関係者も来られ、好評でした。今春中学を卒業する者は丙年生れて、例年に比し県下で約一五〇〇名減で、本校でも学級減が心配されましたが、昨春と大差のない一八一名の入学者があり、六クラスが認められ安心しております。

三月未の人事異動で、西村校長が県立図書館長に栄転され、後任に県教育委員会高校教育課長宮地恒雄氏が発令され、また二十六年間も勤務されました久教頭が山田高校教頭に転出されました。以下に転任、着任されました諸先生を紹介いたします。

転任 着任

西村 博(校長)図書館長 宮地恒雄(校長)高校課長
久 正一(教頭)山田高 古谷恭啓(船)期 講
中屋十郎(国)大正高 岡村真雄(国)新 採
明神 亘(数)退 職 明神利道(数)窪川高
森沢徹男(理)高知西高 吉村隆雄(理)仁淀高
鎌倉信吉(英)仁淀高 西村 茂(英)嶺北高
谷 富貴(英)(時講) 今西利恵(国)英期 講
野中康成(体)(時講) 矢野隆司(体)時 講
川島隆志(船)退 職 浜田順一(船)宿毛工高
横田 実(化)高知工高 戸田泰輔(化)窪川高
依光文雄(電)高知工高 橋本泰男(化)期 講
広松友子(音)(時講) 川島隆志(船)時 講
次に悲しいお知らせですが用務員の阿曾義近さんが七月三十日病気が急に悪化し逝去されました。兵庫県出身、大阪で理髪業を営んで居られたようすが職災の為、昭和二十一年県造船理髪部主任として来県、その後、高知通運須崎支店勤務、本校では三十一年九月より亡くなる一ヶ月前まで「阿曾のおじさん」と親しまれて、学校の裏方として献身的に勤務されましたことに感謝し、ご冥福を祈ります。さて、この一年間をふり返ると種々ありましたが、去る五月七日の臨時生徒総会の件を報告しなければならぬと思います。新聞、テレビを通じ「授業ホイコット」の見出して全国的に報道されましたので、皆様方にも迷惑だったこと、お詫び申しあげます。生徒指導の力点が交通安全、喫煙、シンナー等具象的な面の事後指導に迫られてきた感がありましたが、本年度よりきちんとした服装で、学校を休まず、毎日の学習に真剣に取り組む事から始めようとの事、頭髪指導をしていた矢先の出来事でした。事

前に報道機関に連絡した上で、ホイコットを始めた事が騒ぎのようになったのですが、何といつても生徒、保護者の理解を得ながら指導をすすめる事が大切で、その後生徒会、PTAと話し合いながら、良い後輩となるよう努力しておりますので、よろしくお願ひします。

クラブ、部活動では特筆する程の報告がなく残念ですが、各部共練習に励み、上位入賞に今一步と向上しております。特に一年生に有望な者が多く居るようて来年からが楽しみです。ヨット部は八月三日、錦浦湾で、日本ヨット連盟のバジツテストに合格し、島根県で行なわれる夏季国体少年スナイプ級に県代表として出場します。競走艇は高知大学のを借りなければならぬというハンデイはありますが県ヨット協会理事長古谷正宏氏が須崎に居られ、平素からご指導いただき、この団体にもヨットの部総監督として、同行してくれまますので、活躍を期待したいものです。(監督井上耿介、選手浜村忠士、浜田高德、古島孝幸)。ご支援をいただいている野球部、秋の選抜大会予選では、高知工を3ー2で降し、出場しましたが、大方商に3ー5で惜敗。ソフト、テニス、バレー、バスケット、サッカー、バトミントン、剣道等々の体育部は勿論、文化部では囲碁クラブが日本棋院の級位をとって全国大会予選に出場するようになりそれぞれ頑張っております。

首相が財政非常事態宣言をするような時世ですが、良き後輩の育成に努力する覚悟でございますので、同窓生皆様益々のご発展とご健勝を祈念致しますと共に、母校の為ご支援の程、よろしくお願ひします。

近畿支部だより

23 機卒 吉川 貞造

同窓とは、うれしい存在である。

ぼくら同期の、うばざくら、グループ。大阪に腰を落ちつけて、かれこれ三十年。つき合いも長い。ツ、カーの間柄である。

誰かから、ひと声かかれれば、集まって一杯やる。飲むほどに、酔うほどに、性こりもなく須工時代の行状記に及ぶ。

年をくつたせい、記憶の薄れは隠しようもないが、不思議と少年、思春期のことはよみがえる。やはり印象が強かったのだろう。実際、ぼくらの中学時代は、大げさというなら波乱万丈であった。話にこと欠かない。

戦時中、工場の実習で怠けて先生の怒りをかい、一列に並ばされて、精神注入棒（注）なるものでシリをイヤというほど叩かれたこと、戦争の雲行きが怪しくなってきた三年生ごろから、新庄の松下工場へ、日章の飛行場へ、高岡の鉄工所へと、働きの行った動員の哀感。そして戦後の混乱期、ろくに勉強もせず、遊びほうけて親を嘆かせたことなど。だいたい、砂をかむ、ような思い出が多いが、みんな結構楽しんでる。

八月のある日、声がかかった。いそいそと行って

みると、今回は話が違った。「同窓会近畿支部の世帯が大きくなって手物に負えん。連絡事項などスムーズにするため、大阪支部をつくって一本立ちしようじゃないか」ということである。この話は以前から有志の間で持ち上がり、ようやく機運が熟したという。異論はない。さっそく、西川嘉明大先輩をはじめ在阪の有志十余人が集まって準備会が開かれた。

近畿支部を大阪、兵庫、京都・滋賀の三支部に分離独立し和歌山、奈良の会員は大阪に合流ということから話が進められ、総会を十一月十三日、大阪ミナミのニュージャパンで開くこととまとまった。こんな大会はめつたにないことと、どれくらい人数が集まるか見当もつかない。会場選びが難題だったが顔のきく有志がかけずり回り場所も確保してくれた。一方、大阪在住の会員約四百人には、世話役のO氏が中心となって、一人一人にはがきて連絡してくれた。大変な作業であるが、この大会を成功させようという、有志の心意気と熱意には頭が下がる。

総会といえは四十六年八月の近畿支部設立大会が思い出される。はじめてのことと、どうなるかといらぬ心配をしたが、役員努力と多数の参加者の共鳴を得て旗上げは成功した。

あれから十年。思えば大きな輪になったものである。毎年、生きのいい、須工の顔が各地に根を張る。心強い限りである。さて秋の総会。懐しい顔が新しい顔が一堂に会して、さぞにぎやかなことだろう。さすなが強まる。友がふえる。
やはり「同窓」とはいいものである。



ハチキン健在

吉川貞造

「同窓」とは無関係な、ほんの寸話で恐縮だが、ぼくが大阪へ出て来た若いころの話である。或る夜、会社の先輩に、須崎出身のおばさんがやっているという飲み屋に連れ行ってもらった。路地裏の十人も入れば満席という店である。

なんでも旧満州から引き揚げて来て故郷の須崎に何年かいたが、わけがあつて大阪へ出てきたといふなかなか向う意気が強くて、ぼくら若僧は太刀打てきなかつたが反面、涙もろい典型的な「ハチキン」であつた。ぼくは何回か通ううちに常連になつた。随分ツケもためたが、おばさんは、懐具合を見抜いていたのだらう、催足がましいことはちつともいひなかつた。

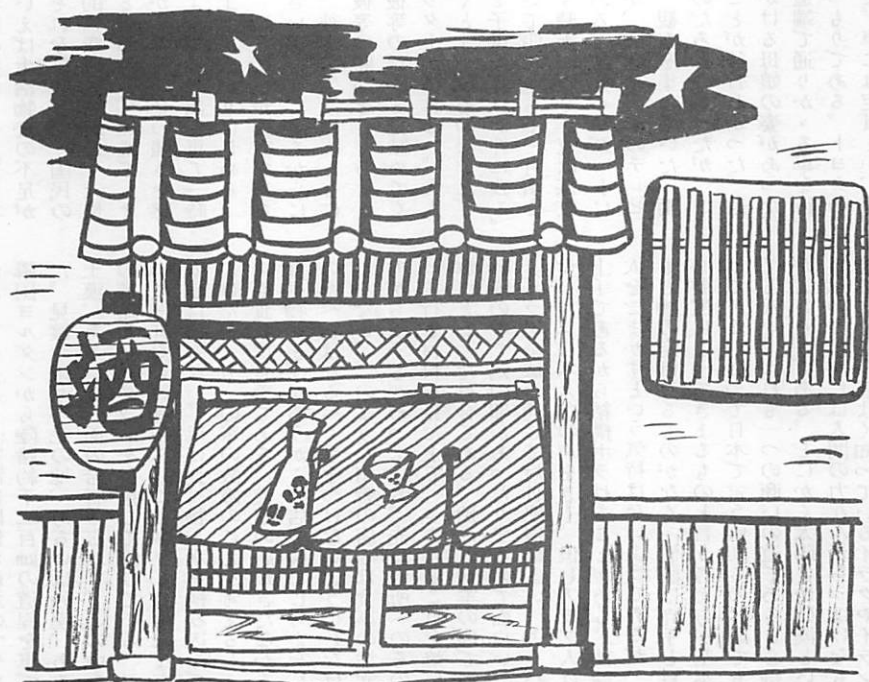
深夜、へべれけになつて店に行くと、酒は出してくれず「商売だから売ればいいというものじゃない」要するに、もつと身体をいたわれということだらう、ブツブツいいながら必ず茶づけを出してくれた。うれしい心情である。

こんな武勇伝もあつた。或る夜、なじみ客五・六人が飲んでいると一人の客が突然、ぼくからみだした。外に出てもみ合っているうち、おばさんがスリコギを手に飛び出して来て相手の急所をいきなり

突いた。相手はうなり声を上げて気絶してしまつた。あとで警察に呼ばれ、さんざん油をしばられたが、おばさんは顔色一つ変えず、若いお巡りさんに「あばれ馬は金抜きに限るぞね」と。面目躍如である。

とにかく、ぼくはこの店ていりろいろな人生を教わつた。さみしいときには激励してくれ、たし、うれしいときには共に喜んでくれる。

ほのぼのと、しんみり、心に糧を与えてくれたハチキンおばさんは今も元氣いっぱいである。背すじをピンと伸ばし、せつせと商売に励んでいる。



イラク雑感

21機卒 広瀬 理

私は須工時代機械科であったが気がついてみると電気屋になっていた。仕事の関係で過去四回にわたってイラクに出向し、現地で変電所の建設などの仕事にたずさわってきた。設計や建設工事というところではよいが実際は種々雑多なことが多く、まさに雑用が大半を占めていたように思われる。そのなかでも機械に関係する仕事も結構多く、このような開発途上国にいと電気屋とか機械屋とか言っておられるのが実情であった。機械的な計算をしたり、こわれた部品をいじっていると戦時中で不十分な勉学であったにせよ須工時代に頭脳に織り込まれた機械屋としての脳細胞が少しづつ甦るのはなんともなつかしいものであった。私が卒業した頃は戦後の混沌とした時であり、工場らしい工場はなく卒業生の多くがそれぞれ勉強した学科とは関係のない職業についてたものである。このような同窓諸兄もその後の生活において何らかの形で須工時代に学んだ科目に郷愁の念に似た感情で接した機会があったものと思いたい。

ク戦争で非常事態であらうはずなのに首都バグダットでは直接戦争を感じず五年前の生活と一見差がないように見られる。戦争といえば生活物資の不足がつきものであるが比処ではそれを感じない。国民の動搖を防ぐため政府が積極的に空路・陸路より大量の物資を輸入しているからと言われる。比処でもオイルダラーと周辺同盟諸国からの援助金の強さを感じさせられる。バグダットより郊外に出て車で一時間間も走ると見わたす限りの土漠が広がりはじめる。ところどころに部落があり、ほとんどもが農家である。農家は申し合せたように小さい土の家で見るからに貧しい生活がうかがわれる。彼等の生活にまともにカメラを向けるといかに彼等の恥部をさぐろうとされているように感じ、また彼等のジーと見詰めてくマナコを前にするとシャッターが切れない。大人の女性は見知らぬ人が近づくとすぐに窓のほとんどの暗い土の家に姿を消して子供達だけが外に残る。雨期と乾期がはっきりして四月から十一月頃までは殆んど一滴の雨も降らず晴天が続く、夜は毎夜のように美しく輝く星空である。最初バグダットに行ったときは十月であったが、公園に大形のテレビが裸のまま高い台に置かれ、観衆を集めていた。雨が降りはじめたらどうするのだろうかと思つたが、この国では不意の雨などないことが後日わかった。道路の傍に市場かどこかに出かける母娘の姿があった。大きな包みは野菜である。道端で通りかゝる車を待ち街まで同乗させてもらつつもりである。トヨタの小形トラックをよく見かけた。車には定員とか、荷台に人が乗ってはいけないといったこむつかしい規則はない。どの車にも乗れるだけ乗って走っている。

イランイラク戦争の直後にイラク入りをしたことがある。バグダット空港は閉鎖されたのでやむなく隣国ヨルダンから陸路約千二百kmの道程を車で行った。見渡す限り不毛の地、あるいは砂漠、あるいは土漠、あるいは一面の岩石の広がり、この中を一本の道路がバグダットを目指して伸びている。三〇〇kmに一軒ぐらゐ道路ぶちに食事をとる粗末な店がある他は何もない。車に食べ物と水を積み込んで走るわけだが、万一の車の故障のことを考えたらこれらの飲食物は貴重である。道端の店がきたなからうが、食べ物があるからうがこの店で腹ごしらえをして車の食べ物はあるべく手をつけられないようにしなければならぬ。このような田舎の店では食事の注文の仕方がちよつとかわっている。先づ台所へのそのそ入って行き材料を見た上で、「これとこれを焼いてくれ」といった具合である。殆んどが羊の肉であるが砂漠の中で鶏の卵があったりするので面白い。

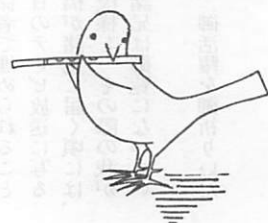
イラク全域を通じて対日感情はよい。よくハロー、ヤバニ(日本人)の声をきく。但しアラブ人は商売上手であるから結構ホラれることがある。彼等には人をこまかすという気持はないようであるが、もともと物の定価なるものがなく、値段は売手と買手の必要度によつてきまるものと言う考え方が基本のようである。従つて日本と言う値切るのは恥でもなんでもない。これも一つの商いの道であると思つた方がよさそうである。とにかく太陽とか砂漠といった自然の力の前には人間の力なんかちよつとげなものであることを一番よく知っているイラクやイランの人々が今の戦争に一日も早く終止符を打つて平和をとり戻してもらいたいと思ふこと切である。

高知支部だより

私の履歴書

戦中・戦後・そして今の要約
高知支部長就任挨拶を兼ねて：

(20機卒53才) 吉岡豊延



昭和16年須工創立と同時に入学、当時の制服カキ色のミリタリルックで下半山村(現葉山村)から通学、旧制だから13才のコンマイ子供が編上靴(ゲートルを巻き背ノウ(カバン)を背負って、馬のクノや砂利の入った穴ボコの県道12キロを雨の日も風の日も通い続けました。

自転車は須崎市西町の高橋自転車店で父に連れられて買って買いましたが百円でして、「無敵号」と言うその車名は当時の世相を表わして面白いです。

鬼畜米英。天皇は生神様。学校を早く卒業して戦争へ喜んでゆき、死ぬる時は笑って「天皇陛下パンザイ」を叫べノみたいな教育をヤケに多く受けて卒業して20年4月に広島県呉市の「第11海軍航空廠」と言う飛行機の部品を作る会社に入り、予期した敗戦で葉山村に帰りしばらくボーとしていた後、電気道を職業に選びます。

芋メシを食べ芋チュウを吞んでリンゴの歌や、かえり船や、トンコ節など唄いながら何とか生きて27年自営開業し、「お富さん」から「テネシーワルツ」

のメロデーに酔いしれて、それでも日本復興の原動力として昼夜を分かたず努力の結果、地域での限界を感じ、後進に託して県都へ進出を決意(侵略ではないぞ)、40年から高知市潮江地区を拠点にそれこそ八面六臂の奮闘をします。

アメリカは「エコノミックアニマル」と言いましたが私はこれを「須工の勤労精神」と呼んでいます。その頃たま〜意気投合して「清家寛(前高知支部長)氏」をキヤップに須工同窓会高知支部を結成！幹部の献身的努力で現在の隆盛に至る。

以来月移り星かわり、言葉に言いつくせない程の紆余曲折を経て今も尚、血のにじむ思いや胃のキリ／＼痛む零細中小企業の悲哀を味わいながら、それでも在高須工同窓の連帯に支えられて、10名(内須工2名)の社員と共にがんばっています。

「今日が楽しい、明日も良いことがあるような」そんな温もりの期待される集いの同窓会でありたい。そんな高知支部に育てあげたいと念じています。各地の皆さん高知市へ来たら声をかけて下さい。



〔須工同窓会高知支部長〕

高知市北竹島町四三八

吉岡電工株式会社

TEL(〇八八八)三二一〇二六一

関東支部だよりの

昭和二十三年機械科卒
東京弁護士会所属弁護士

岡田 信 雄

私自身、毎年たのしみの一つにしている須工同窓会関東支部総会が、六月十二日に行なわれました。(長く東京附近に住みながら、母校へは勿論、関東支部にも全く御無沙汰しておりましたが、五年程前に支部総会に出席して以来、毎年その日を待ちかねるようになりました。)

今年もまた田所支部長の肝煎りで、昨年と同じ銀座の一流のクラブを借切り、美人多数の厚いサービスマスのもとに、いと厳肅(?)に開催されました。約五・六十名は出席したと思いますが、年ごとに若手の参加が多くなるのは嬉しい限りです。(しかし、昨年、松本副支部長も、この欄に書いておられた通り、毎年案内状が百通以上も転居先不明等で返送されてきます。転勤の関係も多いと考えますので、そのような際は、是非御一報下さいますよう。)

議事は極めて迅速、能率的に進行し、たぐちに懇親会に移したの、いつもながらの支部長、副支部長の手腕によるものであります。会場の各所で、例によって思い出話に花が咲きましたが、私達の周辺では旧校舎のことが話題となりました。創設期の生徒は、教室も小学校の間借りて文字通り自分等の手で敷地を造成した。戦時中はそれに山の土を入れて芋畠を作った。戦後は野球などのとき、その石ころに苦勞した。その校舎も焼けて再建資金に生徒が

スピードくじまで売った、など。そしてその話が判るのは五十才以上だと、結局大笑いになりました。なかには現校舎をまだ見たことがないというものもかなりおりました。(私もその一人で、帰省のとき、車窓からチラリと見るだけですので、来年は是非行って見たい。)最後に校歌を合唱したのですが、昭和二十三年以前の卒業生は、その校歌も知らないのてただ首をうなだれて拝聴し、散会后、二次会のグループを作って街に押し出したのであります。

後日譚があります。支部総会の席上で精悍な風貌の青年が紹介されました。リングネーム「土佐源」こと藤本公三君(造船科昭四十三年入)で、プロボクシング日本フェザー級三位、近いうちに日本フェザー級タイトルマッチに出る予定とのことでした。七月に入って間もなく、「土佐源」が、いよいよ日本チャンピオンで世界周級六位のスパイダー根本に九月三〇日挑戦することが決定した旨連絡がありましたので、これもまた田所支部長の肝煎りで、銀座の料亭で一杯やりながら幹事を開き、関東支部として応援しようということになりました。その後、梅下弘育君(機械科昭三十八年卒)らの若手諸君の努力で、後樂園ホール西側座席の特別席から最上席の部分二・三〇席が我が同窓会関係者で埋められることになりました。この席は、当日のテレビ放送に写る場所とのことですので、この稿が諸兄に届く頃には既に新チャンピオンの誕生の模様と、その際の我が関東支部同窓の応援ぶりを、諸兄は御覧になっていることでしょう。

母校の隆盛と同窓会の発展、御活躍を御祈りいたします。

◀ 中庭より正門をのぞむ



幡多支部だより

21機卒 吉村 功

同窓会の皆さん、ますます御健勝にて頑張っておりますことお慶び申し上げます。

扱て、私達幡多支部は五十五年十一月末に、清家会長、西村校長先生を初め、吉岡常任理事、島崎事務局長の御臨席をいただき、絶大なる御指導と激励のお言葉を賜り盛大に発会式を行いました。そのうち昨年八月、大野義雄副支部長が伊野へ転勤になり、今年八月には支部長の松沢真三君が高知へ転勤され、支部三役は私一人となりいわゆる両手をもがれた様な状態となり甚だ淋しく感じた次第です。

でも折角諸兄のリードと会長の意欲のもとに発足した幡多支部をこのままでは申し訳なく思っております。九月十一日理事会を開催致しまして、今後は殊に支部三役は転出の懸念のない、即ち当地に密着した職業の新進気鐘の方々になっていただきたい。幡多支所のゆるぎなき発展を期すべく話し合いをもちまして、丁度発足以来二ケ年にもなり、規約による役員推選の時期にもなっております。だし十一月中旬頃に総会を開催して、欠員の役員を選出して大いに飛躍させる所存でございますので、同窓の役員の皆様、事務局の方々たちの一層のご指導ご鞭撻を願ひ申し上げます。

尚、当理事の松浦君は中村にて手広くしかも堅実に建設業を経営（松浦建設）しておりますが、実

は先日 of 理事会の中で「教材を提供してもいいから母校で漁船を造ってもらえんやろか」と申されておりましたが、松浦君は仕事にかけてはたくましい方ですが、レジャーの方もこれまたプロ顔負けで漁船にて遠く日本沿岸を駆け巡り、シビ繩・鯉釣等に掛けている様ですが今の船では物足りない様で、一つ後輩に最新 of 技術を導入した即ち、安定したスピードの出せるしかも省エネを生かした船を造って欲しいものと存じます。学校で当局の格別のご配慮

淀鋼大阪工場 第五回 社内同窓会成功す

昭和30年機械科卒

矢野 晴 英

同窓会諸兄の皆様、日頃のお務め御苦勞さまで。私は、淀川製鋼所大阪工場に勤務して25年になります。その間、同窓生も大勢入社した時代もあつて、須工同窓生の親睦をはかる為に、たびたび同窓会を重ねて参りました。今年も、7月10日に、大阪のどまん中、阪神の屋上ビヤガーデンにて同窓会を行なりました。集まった人数は、わずかに9名でしたが、これで全員です。同じ企業に働く仲間達ですが仕事場がそれぞれ違う為に、日頃はめつたに話し合う機会もありません。メンバーの中には、もうそろそろ50才と云うベテランや、まだ青春時代のぬけきらないようなフレッシュマン、そして最近他工場より転

をお願い申し上げます。進水すれば同窓会にふさわしい船名が欲しいものですね。

それでは清家会長を初め、皆々様の益々の御健斗をお祈り申し上げますと共に幡多支部にいつそそのアドバイスをお願い申し上げます。

幡多支部副支部長（支部長代行）

入になって本日が初対面という人などあつて、なつかしの我が母校、須崎工業高等学校の思い出話に花が咲き、大ジョッキをかたむけながら、真夏の宵に涼しい風を肌身にうけて、第五回淀鋼大阪社内同窓会を開くことができました。

普段は、仕事仕事に追われて忙しい身体ですが、この日ばかりはあの糺の町の須工のグラウンドに立っているかのような気分、20年前、30年前の青春時代を思い出し、本当になつかしういって置きます。このような会合は、五年に一度位しか設けていませんでしたが、今後はもっと回数をややして、同窓生の一層の親睦を深めていきたいと思ひました。最後はお互いの活躍と健康を誓ひ合つて、カンパイ！カンパイ！と大阪の夜空に須工OBの元気な声がかたまする中で、他のお客さんの迷惑もかえり見ず、阪神ビヤガーデンのグラスバンドにのせて、

須崎工業高校の

教の庭に身と心

新天新地光明の

と須工の校歌を歌って散会しました。

ところが、このまま別れてしまうのはあまりにも心残り、せつかく集まったんだからと、今度は北大阪の中心地、梅新で、かつおのタタキに司牡丹をそえて、よさこい、よさこい、と夜の更けるのも忘れて唄いまくった。本当に意義深い同窓会であつたと思います。

阪神地区で、私達のように企業内で同窓会組織をもつ皆さんも沢山おられると思いますが、企業間の交流にも役立ちますので、合同の同窓会を開きたいと考えています。主旨御理解の上、是非御一報願いたいと思います。

西宮市丸橋町8の2 26年M卒 市川 栄
堺市大豆塚町2-23-15 27年M卒 山名潤治郎
28年M卒 岡田 善七
28年M卒 野村 俊明
29年M卒 中 聖徳
30年M卒 矢野 晴英
32年M卒 森田 泉
35年M卒 森 大治郎
43年E卒 浜田 貞夫



元気で頑張る淀鋼の仲間達

9月2日 淀鋼大阪工場にて 右から

野矢市山浜
村野川名田
 潤
俊晴治貞
明英栄郎夫



「陸船会便り」

造船一期会 25 S卒

福永徳七郎

われらの同期会が二十四年目に復活して、毎年八月十六日を開催日とすることを決めて、今年で第三回目の陸船会が須崎市内の某亭で行われた。八月十六日は終戦記念日の翌日である。なぜこの日が選ばれたのか!? 須工造船科一期・二期生が動員を喰らったのが、この日だったからである。上級生も兵隊も徴用されていた大人たちも続々と帰郷し始めた日に、大野見村の貯水池工事に狩り出されたのである。戦争が終って動員令を喰らったのは、全国でわれわれだけだろう。大野見には十日間集くっていた。この間に飯の質が悪いと言って役場へ怒鳴り込んでストをやったこともあった。なにしろ戦争中は腹は減る、鳴る空きつ腹へ空襲警報、ガキは飛び込む横穴防空壕。敗戦後は学制改革の大騒動。こういう中で多感な少年期を過した四十五名の同期生も今は、死亡四名、行方不明四名、音信に返答なしが四名で、ハッキリしているものは三十三名になってしまった。分布は関西、中国地方に互っている。帰って来るにも仕事の関係などで大変な苦だが、何時も十三・四人は集まってくる。

今回は三回目だから死亡した者、欠席の者も、へのへのもへじの人形に死者は黒、生存者は赤で氏名を書き入れて記念写真を撮った。「全員集合」だ。ちなみに死者への追悼を記して置きたい。単に某

君没では面白くないということ、森久敬(神職)が院号を贈ってやったのだ。「露滴院・津野康雄居士」。彼は二年生の時に熱病で幼逝した。「武勇院安部学居士」。彼は安芸郡北川村から来ていた。高等科から来たから最年長組であった。数々の武勇伝のある男だが森の追想によると、軍事教官の福本三郎中尉の「安部、予科練へ行けいっ!!」と言う勧告を即刻、拒否したことがあったそうだ。彼は「兵役を拒否しません。しかし、自分は今、予科練などへ行く気はありません!!」。と大声で怒鳴ったという天晴な同期生であった。帰郷して代用教員のあとと營林署へ勤めていたのだが、三才の娘と生後六ヶ月の男の子を置いて二十五歳で逝ってしまった。れい子未亡人は女手一つで二児を立派に育て上げている。



▲ 陸 船 会

「真面目院・山野上蔵居士」。土佐久礼の男だ。真面目としか言いようのない男だった三十五歳。「学院・橋本増英居士」。昨年、小学校教頭で死んだ。校長の椅子を目前にして。残念だったろう。奥さんも教職にある。大学生と高校生の二女は立派に成長している。

さて、竹村義典先生は夏の行事の一つとして、この会を楽しみにしていて下さるのが有難い。今年は広瀬雄助先生から清酒を頂戴して恐縮しているところである。ところで、この会の圧巻であり伝説化しようとしていることの一つに、須工同窓本部会報に発表され逝去している筈の、桑原章師先生を東京の空の下で捜し出して、第一回陸船会へご招待出来たことである。先生の生存をなんとなく言い始めたのは中川安彦だった。捜し出したのは森だ。その経過には珍談奇談が山積しているのだが、陸船会の秘話として割愛しておこう。

なぜ陸船会!? なのか。小なりと言えども会名は必要だと主張したのは森久敬で、「海に浮く船は作らずに、陸で子どもを作った造船野郎の集い」と言うことで、この会名が決まった。来年も夏の暑い日に陸船会は開かれる。諸先輩、後輩の会もそれぞれ何処かで開催されることだろうが、須工の発展と共に更に親睦を深められることを、われわれも祈っていることをお忘れなきよう。会は連絡所を、「高知市南宝永町一六一二六。電八二一〇七一七。福永徳七郎方」に置き、会報「陸船会」を発行している。会報の執筆編集は森が勝手にやって、コピーは福永の担当で、この二人が世話人代表である。学校と共に永く維持してゆきたい陸船会便りという次第。

同窓会の末永い発展を求めて

同窓会長 清家 寛
事務局長 島崎 良一

会員の皆さんお褒りありませんか。「にしきうら」もお蔭さまで7号を発刊することができました。

会報が毎年発行できるのは、会員各位の御協力のもと役員並に幹事の方々、更に母校諸先生方の御理解ある御協力、御指導の賜物でございます。会を代表して心から感謝と御礼を申し上げます。

昨年本部総会が母校で開かれ会員多数のご参加を得、また校長先生はじめ諸先生方の御臨席を得て盛大に開催することができました。

さて「同窓会の現況は」前号でお知らせしました様に本会の発展のための基礎づくりの時代のように思われます。

会員の皆さんには、公私ご多忙のことと思いますが、母校の発展と共に同窓会の発展をはかるため次のことについて格別の御理解と御協力をお願いいたします。

会員の皆さんにお願ひ

一、同窓の親睦を深めて下さい。

企業内や職域内では、須工会や同窓会が行われているところが各地にあります。今後はより多くの企業や職域で同窓の親睦会が開かれるよう御努力下さることをお願いいたしますと共に、会が開かれた場

合はその様子を会報に載せて、全国にご紹介させてもらいたいと思っておりますので、その記事及び写真を本部事務局まで送って下さるようお願いいたします。

また総会や支部会へは、進んで参加し、より多くの同窓を知ると共に親睦を深めて下さい。

後輩達は年々新しく加入して参ります。先輩の方々は後輩をどうか暖かく迎え、引き立て、やって下さるようお願いいたします。

二、会費未納の方は

「終身会費」を納めて下さい。

数年前から後輩達は、卒業の時点で殆どの方が、終身会費を納めてくれています。またそれ以前の卒業の方々からも終身会費を納入してもらっています。同窓生の全体から見れば僅少です。同窓会を今後大きく発展させるために、会員の皆さんの御賛同を得て、会費を「終身会費」一本にすることが出来れば、会は大きく発展できる財源の基盤が確立します。昨年の本部総会にこの件を提案、参加者全員のご賛同を得まして、会費は終身会費（二万円）に統一することに決まりました。

既に実社会にご活躍されている同窓の皆さんには、何かと出費の多いこと、思いますが、右事情を御賢

察下さいまして、本会発展のため、未納の方はなるべく早い時期に、終身会費を納入下さるようお願いいたします。

尚その納入については、分割払（一ヶ年以内）も結構です。何卒ご協力下さるようお願いいたします。

終りに臨み、会員の皆さんの御健康と、ますますの御活躍を祈念し、併せて母校の御発展を心から祈りいたします。

職場訪問記

進路指導部

高橋 宣彦

大阪地方が、集中豪雨に見舞われた八月三日、私は、昨年度卒業生の職場を訪問するために、大阪の町を訪れていた。若干、交通機関の乱れのため、予定を変更したものの、その後は、なんとか日程を消化する事ができた。

八月三日 S電気工業 大阪製作所

大きな工場が並ぶところ、いかにも老舗という感じの一面。電線ケーブルメーカーの大手である。事務所て説明を聞いているところへ、T君が元氣な声で入ってきた。現在、ケーブルの接続技術の修得に努力しているとのこと。何も不満は無いということ、明るい弾んだ声が印象に残った。

八月四日 N電気硝子 能登川工場

名所旧跡の点在する、びわ湖畔。安土の駅を過ぎると間もなく、小さな田舎の駅、能登川駅に着く。

田園地帯の真中に位置するこの工場は、ガラス素材とガラス繊維を製造している。特にガラス繊維は電気回路用基板や、その他の用途に、需要が多く、活気に溢れていた。丁度、夜勤明けのF君もきてくれ、仕事の話し等、元気に話してくれた。すでに、車も購入し、休日には、友達とドライブを楽しんでいるとの事だった。F君の仕事は、ガラス繊維の巻取機の操作ということで、やや高温できついようであるが、寮の方は静かな環境の中、冷暖房完備の個室で、恵まれていると思つた。

八月五日 サロン・ド・Y.

地理不案内な大阪も、三日目となり少々自信もつきかけた。ところが、梅田地下街より地上に出るなり、方向音痴となつてしまい、日盛りの中を旅行鞆片手に歩き廻つた拳句、目的の梅新ビルに着いたときには汗だくだつた。昨年、昼休みや放課後いつも進路室へ来ていたT君。流行の服と明るい笑顔で待っていてくれた。西日本一といわれる美容業チェーン、従業員の嫉も厳しく、技術の修得のため、一生懸命にやっているとのこと。特に本人は、梅田店より、新規開店の塚本店に配属がかわり張り切つていた。

八月六日 F棟

大阪のベッドタウン、茨木市。エレベーターの研究塔が高く聳えている。本社をニューヨークに移すというほどの輸出志向の強い、エレベーター、エスカレーターのプロメーカー。U君は、大阪支店でメ

ソテナス技術員として、元気にやっているとのこと。て会えなかったが、二年目のI君が待っていてくれた。すっかり仕事にも慣れて、後輩の指導もしながら頑張っているとのことと安心した。

その他の企業も含めて、本年度の求人見通しは、非常に厳しいとのことであった。しかしながら、高知県内校への求人は、本校のみといった企業もいくつかあり、各卒業生の今後の一層の活躍を祈りながら、なお皆さ厳しい大阪の町を後にしたことであった。

ソフトボール部 近況報告

顧問 伊藤正孝

今年からソフトボール部の顧問をさせて頂く事になりました。とはいってもまだまだ力不足です。前顧問の津野先生のお手伝いをさせて頂くつもりです。

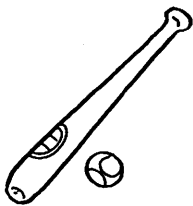
さて現状ですが、部員は三年生五名、二年生九名、一年生八名の計二十二名です。現在は、一・二年生による新チームの育成を中心にして、それを三年生に援助してもらう形をとっています。

ソフトボールは現在県下で最も親しまれているスポーツであり、中学校、高校、一般社会人に数多くチームが争っています。特に高校は、三十余チー

ムと全国一の盛況ぶりでありました。そのレベルも高く、一昨年五五総体の高知工、学芸高、優勝・準優勝等、常に全国大会上位入賞をしております。

この様な中で勝ち進むのは並大抵の事ではなく、本校ソフトボール部も平日、土曜日はもちろんの事休日も返上し、厳しい練習を積んでおります。本校は、他校と比べてみても体格、素質、技術ともに少しも劣っているとは思えません。むしろ優れている方であると思えます。ただ精神的な面に問題があるように思います。本年の試合をふり返つてみても、せり合いに弱く、簡単に逆転されるというケースが目立っています。その様な欠点を自覚し、特に夏休みに、技術向上の他、精神面の強化、チームワークの向上を目指し、一週間の合宿を行いました。部員は各々何かを得られた事と思います。この練習の成果を生かし、郡体、宿毛大会、また今年からは全国大会につながる様になった新人戦に少しでも上位に、こめるよう頑張りたいと思えます。

輝やかしい伝統を持つ本校ソフト部として恥ずかしくない様に努力したいと思います。今後とも他クラブ同様、皆様方のあたたかいご声援をお願いいたします。



高知県立須崎工業高等学校同窓会則

才一章 総則

才一条 本会は高知県立須崎工業高等学校同窓会と称する。

才二条 本会は会員の親和、母校の隆盛を図るを目的とする。

才三条 本会は本部を母校に置き、正会員多数の地域（職域）に支部を置くことができる。

才二章 事業

才四条 本会は才二条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 会報並に会員名簿の発行及び配布
- (2) 母校の発展に関すること
- (3) 会員の親和に関すること
- (4) その他目的達成のために必要なこと

才三章 会員

才五条 本会の会員は次の者をもって組織する。

1、正会員

- (1) 高知県立須崎工業学校を卒業した者
- (2) 高知県立須崎工業高等学校併設中学校を卒業した者

(イ) 高知県立須崎工業高等学校を卒業した者
(ロ) (イ) に在籍した者で会長が推薦し理事会で認められた者

2、準会員

- 3、特別会員
高知県立須崎工業高等学校在校生

才四章 役員

才六条 本会に次の役員を置く

会長一名・副会長二名（内一名は本部事務局長を兼ねる）・会計一名・常任理事若干名・理事若干名・監事二名

才七条 役員は次の通りとする。

(1) 会長、副会長、会計、監事は理事会において選出する。

(2) 理事は総会において選出された者および母校在職正会員とする。

(3) 常任理事は理事会で選出する。

才八条 役員は次の通り定める。

(1) 会長は本会を代表しその運営を統括する。
(2) 副会長は会長を補佐し会長事故あるときは、その職務を代行する。
(3) 事務局長は本部事務局を主宰し、本会の事業を執行する。

(4) 会計は本会財政の運営に関し、予算収支の企画および収支の執行に当る。

(5) 常任理事は本会の常務を執行する。

(6) 理事は本会の重要事項を審議する。

(7) 監事は本会の会計監査に当る。

才五章 会議

才二条 本会の会議は総会、理事会および常任理事会とする。

才三条 総会は二年毎に開催し、必要に応じ臨時に開催する。

才四条 総会は会長がこれを召集し、出席者の過半数で決定し、可否同数のときは議長が決定する。

才五条 理事会は次の場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき
- (2) 理事の過半数の請求があつたとき

才六条 理事会は総会に次ぐ決議機関で次の事項を決定する。

- (1) 本会の規約の作成変更および役員選出
- (2) 収支予算ならびに決算
- (3) 事業の計画およびその他重要な事項

才七条 常任理事会は会務の迅速円滑な執行をはかるため、総会および理事会の決定にもとづき、直接業務に必要な事項を審議し実行する。常任理事会の決定および実施事項は理事会に報告し、承認を得なければならぬ。

才九条 本会に名誉会長を置き母校校長を推薦する。

才十条 会長が必要と認めたときは、理事会には

かり顧問および相談役を置くことができる。

才一条 役員は任期は二ケ年とする。但し再任は妨げない。補欠のために就任した者の任期は前任者の残余期間とする。

才六章 事務局

才一八条 本部に事務局を置き、事務局長が統括する。

才一九条 事務局の構成は次の通りとする。

- 1、事務局長
- 2、会 計
- 3、母校在職正会員

才二〇条 事務局は総会、理事会、常任理事会の決定に基づき必要な会務を執行する。

才七章 会 計

才二一条 本会の財政は入金金、会費、寄附金その他の収入によってまかなう。

正会員は終身会費を納入しなければならぬ。

終身会費は一万円とする。

入金金は入学時二千円を納入するものとする。

才二二条 本会の会計年度は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

才二三条 本会は会計年度末に会費納入者一名に付二〇〇円の割合で支部に対する配分金を計算し、翌年度六月末までに還元する。

附 則

昭和二五年一月二〇日施行の本会則は、昭和四三年三月一日改正、昭和五一年八月一日改正する。昭和五六年八月九日改正する。



昭和56年度決算報告書

費目	金額(円)	摘要
前年度繰越金	185,778	
収入	384,000	192名×2,000円
年会費	16,500	
特別会計利息	538,300	
雑収入	23,434	普通預金利子他
計	1,148,012	
会議費	13,575	理事會
事業費	769,170	開校記念品・その他 162,800 会報発行費 576,970 調査費 16,200 総務費 13,200 予備費 0 電話代・切手代他
通信交通費	32,010	コピー代
事務消耗品費	6,362	
庶務費	45,450	卒業証書丸筒・ヨット部遠征他
支部配分金	155,400	関東14,600 中京 9,200 近畿45,200・高知38,400 須崎46,600 幡多1,400
雑費	4,750	振替払込料他
計	1,026,717	
収入	1,148,012	支出 残
計	1,026,717	1,148,012-1,026,717=121,295
費目	金額(円)	摘要
前年度未積立金	8,880,000	
本年度納入額	2,310,000	
計	11,190,000	

昭和56年度会計事務について

諸帳簿及び証書類等により監査の結果金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証書とも確実に管理適正に執行されている。

昭和57年5月28日
監査 元 征 夫 雄
" 武 内 徳 雄

昭和57年度予算(案)

費目	金額(円)	摘要
前年度繰越金	121,295	
収入	364,000	182名×200
特別会計利息	650,000	
雑収入	5,000	
計	1,140,295	
会議費	30,000	
事業費	798,000	開校記念品他 140,000 会報発行費他 622,000 送報印刷製本 306,000 料 280,000 振替用紙 16,000 封査費 26,000 調査費 10,000 予備費
通信交通費	50,000	切手代・通話料その他
事務消耗品費	30,000	用紙代・コピー代・その他
庶務費	60,000	卒業生丸筒他
支部配分金	152,800	関東15,200 中京 9,600 近畿26,800 高知45,200 須崎52,000 幡多4,000
雑費	10,000	振替払込料その他
予備費	9,495	
計	1,140,295	
終身会費		
前年度未積立額	11,190,000	
本年度納入目標額	2,000,000	
計	13,190,000	

追悼

本校に用務員として勤務せられ同窓会も何かとお世話になりました
 た阿曾義近氏が去る七月三十日病いのため御他界になりました。

昭和三十一年に本校に着任されてより永年の間本校の発展のため
 多大の貢献をされ、職員、生徒にも親しまれていましたが、急に体
 調をくずされ療養に努められましたが、その効なく不帰の客となら
 れましたことは誠に惜しみても余りある限りでございます。

本紙上をお借りして会員の皆さんにお知らせしますと共に、阿曾
 さんの御冥福を心からお祈り申し上げます。

昭和五十七年九月三十日

同窓会長 清家 寛
 事務局長 島崎 良一

会員各位

至昭和五十七年十月十日

終身會費納入者名

自昭和五十六年十月一日

至昭和五十七年十月四日

山崎之彦

昭和四十二年

真辺義春

昭和五十年
仲村茂博

白石忠臣

昭和四十三年

廣瀬直記

昭和五十一年
竹崎 実

前田 憲男

昭和四十四年

高橋保雄

昭和五十三年
森光俊彦

竹村宏文

昭和三十八年

玉川喜久夫

昭和五十七年
池上浩之

鬼頭三男

昭和四十五年

横島弘明

池田英二

中岡敬博

昭和四十六年

小田道男

大西博文

下元道弘

昭和三十九年

松浦茂彦

打井利伸

岡 弘

昭和四十七年

森沢文男

今井弘信

田村和喜

昭和四十一年

古谷好文

井上秀一

田村和喜

昭和四十八年

谷和史

高橋正彦

昭和十八年

門田正猛
下村晴宏

昭和二十五年

市川 栄
加藤美代治
梅原溢男
須内鹿雄

昭和三十三年

木村 諭
松井捷輔

昭和二十年

広瀬昭一
遠藤源二郎
坂本正昭
宮本正悟
武内昌良
細木坦

昭和二十七年

前田重男

昭和三十三年

竹内淳悟
市川精亮
江口長靱
藤村幹夫

昭和二十一年

宮崎昭男
川添昭男
堀渕健三

昭和三十年

戸田修史
岡本順次郎
安並利益
角西信義

昭和三十四年

大窪英稻
島岡栄夫

昭和二十四年

松浦定雄
堅田雄男
福島孝臣

昭和三十一年

信高健一
田中章介
野島宥助
山口利一
山下直正

昭和三十五年

浜口博至
山本誠二

昭和四十四年

岡 弘

昭和四十七年

昭和四十八年

昭和五十一年

中遠下三笹坂近岸川片小井吉矢山山森明古浜野西西中中永鶴土田谷谷
沢山元宮岡本藤本上岡島上門野崎岡田神谷口村森森山脇原島居元脇
忠昭文一康健時明 一和真柴洋良英兼正広哲明 浩民三貢孝 清賢利
義洋男起志司仁夫勲彦宏一二史浩樹司徳明也久弘二雄隆盛典隆昭二彦

藤橋中戸谷高波楠国北片岡大横山山山矢森森森宮味丸藤藤弘浜西西中
田田平田口橋谷瀬友村山村野山本中下野光下 谷元岡原田田野森村村
忠敦佳勝直寿博 金裕 正郁 祐国雅信直 秀博隆敏浩拓寛一幸正
稔徳男彦廣也一久勉徳孝望明夫勲治己平雄哉章彰史雄郎二磨樹嘉男文

岡大江横山山村松前藤広野奈戸寺田谷谷田千桑堅堅山矢安森森宮宮松
崎川西山中崎上本川本田島路田村村岡 中崎原田田下野並光木本地村
修洋 博浩 政正信理俊幸道吉 光広浩英敏 雅幸 昌 幸浩利 浩
幸央齊一明清史進二_{理子}二浩程孝篤徳幸司雄司正広次修道仁治文郎聖二

大梅安上和吉山山森森三丸松洲藤久浜西西西中中谷谷多下笹坂川尾奥
崎木藤田田井崎岡本本岡岡山原岡中森森川田嶋脇本本元岡本島崎崎
典孝俊和浩省雅秀成 憲理幸祐和民一 裕康和擁浩郁繁英博雄隆哲
成浩一正之二文男男茂郎貝陽介夫也彦工仁之洋之一統夫男樹幸成二也

芳結森明宮松松堀藤福福原浜浜西西西津谷谷高小桑楠川奥岡岡小
川城本神尾本本田部崎原永田田口森村川野脇 岡泉原瀬村田村崎田
演伸賢利竜明寿明新靖靖浩恒賢勇博保 幸幸智増政和英弘二彰
之二生則生人久弘一幸之文広一志文男兎修広男靖広和宏雄幸仁仁

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。(第二号十八頁の様式)

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していませんので、切手、又は現金を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入下さい。

手数料は次のとおりです

卒業証明書 一通につき二〇〇円
成績証明書 一通につき二〇〇円
単位修得証明書 一通につき二〇〇円

送り先〒785須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話(〇八八九四)②一八六一

②一八六二

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

本年度事業中間報告

五月二十五日 開校記念品(エンピツ)を在校生に配りました。

十月三十日

会報第七号を発行予定

編集後記



会員の皆様、御健勝のことと思います。七号の会報を発行することになりました。

今回も各支部の役員の方に、原稿をお願いしましたところ、御多忙中にもかかわらずご寄稿いただき厚くお礼申し上げます。

今回は、吉川貞造氏、福永徳七郎氏、広瀬理氏、矢野晴英氏より御寄稿いただき、これからも会報を発行するにあたり充実した内容でお届け出来ると思います。寄稿いただきました皆様には厚くお礼申し上げます。尚終身会費納入者名は、編集の都合で、五十六年十月以降納入された方のみ掲載しましたので、おことわりしておきます。不審な点が御座居ましたら事務局まで連絡して下さい。

会員の皆様の近況や感想お気付の点がありましたらどしどしお知らせ下さい。

印刷にあたり須崎市内の笹岡印刷所さんにお世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

事務局編集委員



昭和57年度十月三十日発行

発行所

高知県立須崎工業高等学校

同窓会事務局

印刷所

高知県須崎市長古市町二番十六号
有限会社 笹岡印刷所